

これは存りますまい。

五

扱二の復興資金をば、政府は果して何處より如何にして生み出さるや。生等が政府が保険金支拂を補助する事を漸く行なひたりしする事は既に述べた通りでありませぬ、是れも資金の調達方法及び償還法の如何に依つては、無用の言に帰する次第である。又是れは償還の問題であつて、調達や償還の方法問題に比すれば、全く後者の問題でありませぬ。

政府が若し給與的に支出して、個人又は会社の災厄を救ひ、事業の復興を助けらるゝをば、明らかに聖旨を無視し、偏頗でありませぬ。併し、給與でなく、貸與であ

るならは、それでは一才労働者に對する恩恵が無くては叶はず。先づ大体に於いて是々とせられ、併し生等が茲に述べやうとするのは、資金の調達方法及び償還法に就いてでありませぬ。若し償還を要せざる資金が、是れは望まれず、國家の意に感奮する處であります。

が、是れは望まれず、國家の意に感奮する處であります。又は、因果率に安全解を有する調達、それが問題であります。

過ぐる大戦に際して、英國はかの莫大なる歳費をば、課税に依つて得ました。日中も今この復興及び大改革の資金を得るには、課税に依ると云ふのが適當でせうけ